

## 平成30年度地方創生推進交付金事業効果検証資料

### ○地方創生推進交付金事業一覧

No.	交付金対象事業の名称	担当部課名
1	◆稼ぐ地域が人を呼ぶ！移住地としての『とうおん』ブランド創生事業(H29～H30)	総務部 企画政策課
2	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業(H28～H30)	総務部 企画政策課
3	◆稼ぐ力を創出するスポーツと文化による地域活性化事業(H30～R2)	総務部 企画政策課 教育委員会 生涯学習課
4	◆瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業(H28～R2) ～更なる観光戦略の深化と地域連携(東温市、砥部町)による活性化事業～	産業建設部 産業創出課

# 東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成30年度当初予算事業)

## 1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費		
1	◆稼ぐ地域が人を呼ぶ！ 移住地としての『とうおん』ブランド創生事業	平成30年4月	平成31年3月	25,390,457円		
事業全体の概要						
<p>平成28年度地方創生加速化交付金事業の継続事業として、平成29年度～30年度の2ヵ年計画(合計3ヵ年計画)で実施する。市内中山間地域4地域(滑川、河之内、井内、奥松瀬川)の地域運営組織と市が協働して、地域資源を活用した商品・サービスを開発して人を呼び込み、それを市全体の魅力や活力向上に波及させることを目的とする。</p> <p>具体的には、4組織の活動拠点施設で提供する商品・サービスのブラッシュアップ、新規の体験プログラム等の開発、組織の経営能力強化に取り組む。また、中山間地域における特徴的な人・サービス・イベント等を市のシティプロモーションに活用し、市の認知度や好感度の向上効果を中山間地域への移住だけでなく、街なかへの移住にも連鎖的に波及させるプロモーションを展開することで、市全体への転入者の増加を目指す。</p>						
交付金事業として採択されたポイント						
① 自立性		② 官民協働		③ 政策間連携		④ 事業推進主体の形成
地域運営組織が3～5年以内に国の交付金に頼らずに自立することを目指す。		市、移住定住促進協議会、地域運営組織、まちづくり団体、商業施設、劇場などが連携して実施する。		総合戦略施策(集落の維持・活性化、アクティブシニアの推進、地域情報の発信など)を連携させる。		東温市移住定住促進協議会、地域運営組織(4地区それぞれ)が事業推進主体として発足する。
⑤ 地方創生人材の育成・確保						
地域おこし協力隊が事務的・技術的支援を行いながら、地域人材にノウハウを伝え、引き継いでいく。						
事業を構成する個別事業名		事業費	対象経費	財源内訳		
				推進交付金	地方債	一般財源
1	移住地「とうおん」ブランド創生事業	18,829,982円	18,765,342円	9,382,000円	0円	9,447,982円
2	移住・就業体験事業	695,000円	695,000円	347,500円	0円	347,500円
3	頑張る中山間地域等支援事業	5,865,475円	5,849,000円	2,924,500円	0円	2,940,975円
合 計		25,390,457円	25,309,342円	12,654,000円	0円	12,736,457円

## 2. どのように実行したか(Do)

個別事業の実施内容	個別事業の実施結果
<p>1 移住地「とうおん」ブランド創生事業(決算額:25,390,457円)</p> <p>(1) 移住地とうおんブランド創生支援業務(決算額:6,854,544円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部委託により、地域運営組織の商品・サービスの販路拡大支援、プロモーション手法の改善提案、各地域を巡る周遊ツアー等の企画・開発支援等を実施。</li> <li>平成29年度に策定した移住定住促進マスタープランの進捗状況を整理し、改善策を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域間で取組に温度差が見られたものの、奥松瀬川地区ではプロモーション手法を熱心に学び、実践によりメディアへの露出及び来訪者が増加した。</li> <li>移住促進策については進んでいるが、今後の課題として、直接的に移住に結び付けるためにテーマを絞り込んだツアーやプログラムを検討することとした。</li> </ul>
<p>(2) シティプロモーション推進業務(決算額:9,998,640円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域運営組織と連携した大都市圏メディア向け、移住専門誌向け、県内向けメディア向けツアーを委託業務にて開催し、その様子を各媒体にて発信した。</li> <li>職員が作成、投稿したポータルサイトの記事を専門業者がSNS広告で広く拡散。また、話題性のあるイベントや施策についてはインターネットプレスリリースを配信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディア向けツアーにより移住専門誌等で大きく掲載された。また、プロカメラマンの撮影により、事後的にプロモーション利用可能な写真が豊富に取得できた。</li> <li>都市と自然が程よく近接する環境を、年間のイベントに絡めてPRしたところ、志津川分譲地の問い合わせ・販売数が引き続き好調となり、完売に近づいた。(H30も転入超過)</li> </ul>
<p>(3) 移住定住促進協議会補助金(決算額:2,690,400円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>移住定住促進協議会に対する補助金。同協議会「移住サポート部会事業」に係る経費が対象。</li> <li>同協議会が地域運営組織と連携し、大都市圏(大阪)の移住検討者をターゲットとして、東温市の暮らしを「食」をテーマに伝える移住交流会を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な話題提供とメディア・移住検討者への地域案内を行った。</li> <li>関西圏のメディアと連携して広く告知し、大阪市内の会場で「東温どぶろく」「東温イタリアン」等の「食」をテーマに、地域運営組織の構成員が実際に出向き、東温市の暮らしを伝える移住交流会を開催。定員20名に対して、女性を中心に150名を超える応募があり、イベント後の東温市来訪者も複数見られた。</li> </ul>
<p>2 移住・就業体験事業(決算額:695,000円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域運営組織に対する補助金。当該年度は、地域同士が連携性をもって実施する「地域体験プログラム」の企画・準備・試行等の事業を募集・実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>井内地区、河之内地区、滑川地区の連携により、シキミ農家を体験するプログラムを実施し、延べ12名が参加。また、滑川地区、井内地区の連携により、「滑川どろんこサッカー大会」を開催し、12チーム102名が参加し、地域農業や里山の自然環境を体験した。</li> </ul>
<p>3 頑張る中山間地域等支援事業(決算額:5,865,475円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域運営組織に対する補助金。地域運営組織が自らの地域の課題解決に向けて自主的・自立的に取り組む提案事業をプレゼンテーション審査により選定し、実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>井内地区ではシキミ未利用材の活用、滑川地区では「アトリエ楓荘」の活用促進、奥松瀬川地区ではツリーハウスの建築、河之内地区では「カフェkuromori」の体験コンテンツの強化をそれぞれテーマとして、提案事業を実施し、交流人口拡大に向けた基盤をさらに強化した。</li> </ul>

### 3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI) ①	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
移住定住促進協議会及び地域運営組織が提供する移住サポート・体験プログラム等を通じた移住者数(家族を含む)	基準値	6 人	目標値	10 人	20 人	30 人
			実績値	25 人	26 人	51 人
			達成率	250.0 %	130.0 %	170.0 %
重要業績評価指標 (KPI) ②	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
地域運営組織の法人化件数	基準値	0 件	目標値	1 件	1 件	2 件
			実績値	0 件	0 件	0 件
			達成率	0.0 %	0.0 %	0.0 %
重要業績評価指標 (KPI) ③	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
地域運営組織が管理する拠点施設への年間来館者数(平成28年度に開設した4箇所の合計人数)	基準値	700 人	目標値	3,300 人	7,300 人	10,600 人
			実績値	9,764 人	7,403 人	17,167 人
			達成率	295.9 %	101.4 %	162.0 %
重要業績評価指標 (KPI) ④	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
地域運営組織が提供する物産、体験プログラム等の年間売上額(平成28年度に設立した4組織の合計額)	基準値	300 千円	目標値	1,700 千円	3,700 千円	5,400 千円
			実績値	6,335 千円	6,391 千円	12,726 千円
			達成率	372.6 %	172.7 %	235.7 %

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

KPI①(移住者数)、KPI④(物産、体験プログラム等の売上額)は、前年並みの実績で順調に推移している。KPI①(移住者数)の内訳は、中山間地域の地域運営組織を通じた移住については、H29年度が年間11名、H30年度が4名と、初期の効果がやや落ち着いてきている。一方、東温市移住定住促進協議会と東温市が連携実施する移住相談やサポート事業を通じた移住については、H29年度が14名、H30年度が22名と増加傾向にある。各種移住メディアのランキングも上昇傾向にあることから、中山間地域の体験・交流プログラムや移住体験談などを「行ってみたいくなる」コンテンツとして意識的に発信してきたことが、市全体の移住先としてのプロモーションに繋がってきているものと思われる。KPI④(物産、体験プログラム等の売上額)は、河之内の「カフェクロモリ」が売り上げを伸ばし、奥松瀬川地区の「ほっこり奥松」、滑川地区の「滑川清流ハウス」が前年並みとなっているが、井内地区の「井内の里 人空田」が前年比58%と落ち込みが見られ、地域差が生じてきている。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

KPI②(地域運営組織の法人化件数)については、奥松瀬川を除く3地区は、自立的かつ継続的な組織体制の構築が発展途上であり、現在はそれぞれの拠点施設を活用したビジネスを少人数で実践している状況となっており、組織の法人化については4地区とも目途が立っていない。KPI③(拠点施設の来館者数)については、カフェクロモリのみ来館者が増加し、ほっこり奥松、清流ハウスは前年比90%程度、人空田は56%と、運営・集客方法の見直しが必要となっている。カフェクロモリについては、地域運営組織が拠点施設の責任者を設置し、運営コンセプトを一任していることで、ターゲット層にブレることなく魅力が伝わり、ファンが増えていることが堅調の要因と考えられる。

②委員のご意見

・4拠点とも足を向けてもらうよう、スタンプラリー的なことを検討してはどうか。  
 ・打上げ花火的なイベントでなく、継続性のあるものを行わないと「次は何する?」となり、都度の集客で地方創生に効果があると言えるのか分かりづらい。

・力量のある地元のコーディネータを育成する必要がある。  
 ・各事業に熱心に取り組まれているので、今後の事業展開にも成果を生かしていただきたい。

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に非常に効果があった	地方創生に効果があった	地方創生に一部効果がみられた	地方創生に効果がなかった
今後の方針	事業内容の追加又は変更を行い、発展的に実施する	事業内容の改善・見直しを図りながら継続する	事業の一部は継続、一部は廃止する	事業全体を廃止、又は中止する

4. 改善点、改善策は?(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

- ・地方創生推進交付金事業は平成30年度で終了するが、市としては地域おこし協力隊の継続導入と、提案型の補助金制度の継続により、各組織をバックアップしていく。
- ・市移住定住促進協議会の実施する移住体験ツアーなどで4つの地域を巡るなど、回遊性を高めていく取組を実施する。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

- ・地域運営組織の売上向上及び人員の増加・スキルアップを進め、取組のマンネリ化やモチベーションの停滞が起らないよう、目配りをしていく。
- ・地域の認知度向上や交流人口拡大に向け、初期段階の3年間は試行も含めて多種多様な取組を実施してきたが、現段階において地域に定着しつつある取組を抽出し、事業の継続化に向けた支援を行うなど、地に足の着いた支援策についても検討していく。

【事業全体としての改善点】

- ・地域・行政・関係者が改めて話し合いの場を持ち、今後5年間、10年間で目指す地域の将来像を共有したうえで、次の取組を構築していく必要がある。
- ・人材の育成が今後の成功の鍵となるため、力量のある地元のコーディネータの発掘・育成に取り組むことを検討する。

# 東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成30年度当初予算事業)

## 1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費		
2	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！ アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	平成30年4月	平成31年3月	39,946,989円		
事業全体の概要						
<p>本市は、移住促進や観光振興を進めるうえで、認知度の低さが大きな課題となっているが、坊っちゃん劇場による舞台芸術の各種取組は全国の舞台関係者に知られるところとなった。これをチャンスと捉え、本市を舞台関係者の集うまちとする「アートヴィレッジとうおん構想」を平成28年度に開始し、平成30年度までの3ヵ年計画で交付金事業に取り組む。</p> <p>具体的には、多様な舞台芸術の観賞プログラムの提供、アーティストの生活の糧となる舞台芸術のサービス事業化、8K技術による舞台芸術の流通促進、俳優養成所の開設などの人材育成事業を計画しており、これらを通じて舞台芸術の聖地化(オンリーワンのまちづくり)を図ることで、市の認知度を向上させ、観光誘客及び移住者の増加に繋げる。また、本事業と並行して、文化交流施設「東温アートヴィレッジセンター」を整備し、ハード・ソフト一体となって文化芸術による地域の活性化・地方創生の実現を目指す。</p>						
交付金事業として採択されたポイント						
①自立性		②官民協働		③政策間連携		④事業推進主体の形成
移住定住促進協議会と坊っちゃん劇場が協働して事業を立上げ、3～5年以内に自立化を目指す。		市、移住定住促進協議会、坊っちゃん劇場、地域運営組織がそれぞれの強みを持ち寄り連携する。		総合戦略施策(市内施設の観光・交流拠点化、新規産業支援、地域情報の発信など)を連携させる。		東温市移住定住促進協議会内に「アートヴィレッジ推進部会」を形成する。
⑤地方創生人材の育成・確保						
舞台芸術の専門人材を地域おこし協力隊として誘致、本事業を通じて企画マネジメント人材として育成する。						
事業を構成する個別事業名		事業費	対象経費	財源内訳		
				推進交付金	地方債	一般財源
1	アート・ヴィレッジとうおん創生事業	39,946,989円	39,946,989円	19,973,000円	0円	19,973,989円
					0円	0円
					0円	0円
合 計		39,946,989円	39,946,989円	19,973,000円	0円	19,973,989円

## 2. どのように実行したか(Do)

個別事業の実施内容	個別事業の実施結果
<p>1 アート・ヴィレッジとうおん創生事業(決算額:39,946,989円)</p> <p>(1) 8K映像演劇による観光企画業務(決算額:2,995,920円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託業務として、8K映像演劇祭に合わせて舞台関係者が集う国際シンポジウムを企画・広告・開催。</li> <li>・8Kコンテンツを活用した観光プランの企画及び旅行会社へのリサーチを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「8K映像演劇が拓げる観光・文化交流」をテーマとした国際シンポジウムには、韓国、台湾などの演出家、俳優や、国内の舞台関係者、評論家などの舞台関係者のほか、道後温泉旅館組合関係者などの観光業関係者が参加し、新聞・テレビなどメディアでも大きく取り上げられた。同シンポジウムでは8K映像演劇について、特に海外の参加者からの評価が大きく、今後の国際的な展開の可能性が視えた。また、8Kコンテンツを活用した観光企画については、道後温泉、東温市の自然と食などの昼のコンテンツにさらなる魅力を与える夜のコンテンツとして8K観劇を活用できるとの旅行業関係者の声から、道後温泉と連携した8K観劇ツアーが提案された。また、海外向けには2.5次元ミュージカルや字幕付きコンテンツが必要であるとのことから、2.5次元観劇ツアーのアイデアも提案され、次年度の実現に繋がった。</li> </ul>
<p>(2) 移住定住促進協議会補助金(決算額:36,951,069円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住定住促進協議会が実施するアートヴィレッジ構想関連事業経費を対象として補助金を交付。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①東温アートヴィレッジフェスティバルの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な知名度を得るための総合的な舞台芸術の祭典として実施。</li> <li>・「アートヴィレッジTOON戯曲賞」を創設し、全国から戯曲を公募。</li> </ul> </li> <li>②演劇体験・アートセラピー等の企画、試行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇体験ワークショップ、美術系連続講座「とうおんアート・ラボ」を実施。</li> </ul> </li> <li>③俳優養成所講師人材のスキルアップ研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来の裏方人材発掘・育成WSなど</li> </ul> </li> <li>④世界8K映像演劇祭の開催準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア8K映像演劇祭の開催</li> </ul> </li> <li>⑤8K映像編集人材の育成、郷土芸能等の映像化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・8K編集人材の育成研修</li> <li>・秋祭り、獅子舞の7K映像化と活用法の検討</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊(アートヴィレッジ担当)が企画し、多種多様な文化芸術関連プログラムの試行と結果分析を行った。全体として約3,000人を集客。</li> <li>・「とうおんアートヴィレッジフェスティバル2018」と題し、主に東温アートヴィレッジセンターを会場として、演劇、ミュージカル、音楽、ダンスなど多種多様な舞台芸術を鑑賞、体験できる芸術祭を初開催。この一環として開催した「TOON戯曲賞」では、全国区の著名劇作家による公開審査をシアターNESTで開催。次年度の上演を前提とした戯曲賞は珍しく、全国の演劇関係者が構想を認知する機会となった。</li> <li>・即興演劇ワークショップ、マジック・落語・コントを体験する公演、美術に関する連続講座「とうおんアート・ラボ」を開催。</li> <li>・舞台上上がる俳優だけでなく裏方(照明・音響・舞台美術・舞台監督など)も重要となるため、それらの人材を発掘・育成するWSを開催。</li> <li>・韓国、台湾、ロシアなどの海外の舞台公演を8K技術で撮影し、坊っちゃん劇場の特設スクリーンで上映。この実績を基に次年度からの有料上映に繋がった。</li> <li>・8K編集の専門会社に人材を派遣し、技術の習得を図った。また、東温、西条、新居浜、松山の各地の秋祭りや東温市の獅子舞の様子を8K撮影し、アーカイブス化を図った。</li> </ul>

### 3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI) ①	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
演劇関連産業への従事や演劇技術の修得、研鑽等を目的とした移住者数(家族を含む)	基準値	12 人	目標値	3 人	20 人	20 人	43 人
			実績値	3 人	10 人	2 人	15 人
			達成率	100.0 %	50.0 %	10.0 %	34.9 %
重要業績評価指標 (KPI) ②	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
レスパシティ(坊っちゃん劇場が所在する商業施設)の入場者数(現状値:過去3年間の平均値)	基準値	3,430,000 人	目標値	5,000 人	20,000 人	20,000 人	45,000 人
			実績値	13,000 人	-29,000 人	-94,000 人	-110,000 人
			達成率	260.0 %	(145.0) %	(470.0) %	(244.4) %
重要業績評価指標 (KPI) ③	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
坊っちゃん劇場観劇者数(現状値:過去3年間の平均値)	基準値	72,919 人	目標値	1,000 人	2,000 人	3,000 人	6,000 人
			実績値	8,864 人	7,303 人	3,005 人	19,172 人
			達成率	886.4 %	365.2 %	100.2 %	319.5 %
重要業績評価指標 (KPI) (参考)	平成29年度			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
東温アートヴィレッジセンター(H30.4開館)が入居する「クールスモール」内飲食店の年間売上額	基準値	115,582 千円	目標値				
			実績値			125,500 千円	
			達成率			前年比108.6 %	

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

KPI①(移住者数)については、H29年度は構想の立ち上げに伴い多くの舞台関係者が移住したものの、H30年度は多くの移住者を賄うほどの新規事業化が進まなかったため、2名にとどまった。しかしながら、本事業により開始した東温アートヴィレッジフェスティバルは、東京から文化芸術を輸入するのではなく、東温市の自前の人材が地域資源や地域人材・施設と連携して創造・発信するものであり、舞台芸術を通して東温市と継続的に関わる、いわゆる「関係人口」を創出する機会としては非常に有効性が認められた。このため、同フェスティバルについては、令和元年度から令和3年度までの新たな3か年計画で、文化庁補助事業(文化芸術創造拠点形成事業)の採択・認証を受けた文化プログラムとして継続することとなった。まだ移住に至っていないアート人材も、今後の構想事業の進展に期待感を持ち、注視している状況と考えられるため、今後はこれらの関係人口や移住予備軍の人数を新たな指標として集計する方法を検討したい。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

KPI②(レスパス入場者数)については、本事業の規模とその波及効果よりも、エリア全体の集客を左右する外部要因が大きすぎるため、本事業の効果を測定するKPIとしては適切性を欠いたと言わざるを得ない。これに代わる経済波及を図るための指標として、東温アートヴィレッジセンターが入居する「クールスモール」内の飲食店の売上額を調べたところ、平成30年4月の東温アートヴィレッジセンターの開館からの1年で、前年比約9%アップとなっており、まだまだ近い範囲内であるが、経済波及が見られる。

②委員のご意見

- ・上記①の分析のとおり、各KPIの指標の妥当性は今一つ不明確であり、KPI指標を見直す余地があると考える。
- ・各事業に熱心に取り組まれているので、今後の事業展開にも成果を活かしてもらいたい。

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に 非常に効果があった	地方創生に 効果があった	地方創生に 一部効果がみられた	地方創生に 効果がなかった
今後の方針	事業内容の 追加又は変更を行い、 発展的に実施する	事業内容の 改善・見直しを図りながら 継続する	事業の一部は継続、 一部は廃止する	事業全体を廃止、 又は中止する

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

- ・地域おこし協力隊5名が個別分野のディレクターとなり、構想推進になくてはならない存在となっているため、任期後の定住・定着に繋げていく取組が必要になっている。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

- ・東温アートヴィレッジフェスティバルの継続により構想の浸透と集客の安定化を図り、東温アートヴィレッジセンターの通常来館者の増加にも繋げていく。

【事業全体としての改善点】

- ・東温市の人材で独自の企画を創造・発信する取組を強化し、四国における舞台芸術の拠点として機能できるよう推進する。
- ・アートを通じた新たな関係人口や移住予備軍の人数を新たな指標として集計する方法を検討する。

# 東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成30年度当初予算事業)

## 1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費		
3	◆稼ぐ力を創出するスポーツと文化による地域活性化事業	平成30年4月	平成31年3月	500,000円		
事業全体の概要						
<p>近年、スポーツ・文化の経済効果の評価が行われている中で、県内各市町ではスポーツ施設や文化会館などが配置されているものの、住民のコミュニティ活動を中心とした利用に限定されていることが多く、施設を有効利用し、スポーツ、文化を切り口に利益を生み出す発想や取組が不足してきた。そこで、時代の流れをとらえたスポーツ産業・文化産業の振興に取り組むことにより、雇用の確保を伴った定住・移住が進むようなまちを目指すため、県内全域において各種の事業に取り組み、稼ぐ力を生み出し地方創生に結び付ける。</p> <p>スポーツに関しては、東京オリンピックの開催に伴い首都圏で開催できなくなる大会の愛媛への誘致や、スポーツを切り口とした広域交流イベントの実施、各種スポーツの大会・合宿の誘致等に加え、地元プロスポーツ3球団を活用した地域の賑わい創出を目的とした取組を行う。文化に関しては、県内市町、県内の文化拠点、各種文化団体及び市民劇団、子どもも含めた地域住民などと連携し、演劇・ミュージカルの公演、現代アート展、音楽コンサートなどを開催し、文化芸術を通じた豊かな暮らしができる地域づくりに取り組む。また、愛媛県において国際映画祭を実施することにより、愛媛県の知名度向上、魅力発信、県内メディア産業の振興による地域経済活性化や、県民への文化芸術を通じた豊かな暮らしができる地域づくりにつなげる。</p>						
交付金事業として採択されたポイント						
①自立性		②官民協働		③政策間連携		④事業推進主体の形成
スポーツ・文化施設、地域住民組織、商店街、飲食店、各種文化団体等による自主的な取組として、3年をめどに公費負担を軽減しても事業継続が可能とすることを旨とする。		愛媛県、全市町、スポーツ関連団体、地域住民組織、ボランティア、各種文化団体が連携する。		スポーツ・文化を活用した地域振興による移住定住、交流人口の拡大とともに、スポーツ・文化を切り口とした産業振興を連携させている。		スポーツに関しては、県主導により設立する実行委員会、文化に関しては愛媛県文化協会が事業推進主体となる。
⑤地方創生人材の育成・確保						
(公財)愛媛県スポーツ振興事業団、(公財)愛媛県文化振興財団など県レベルの団体や各市町の類似団体の職員等を中心に、ノウハウの蓄積により人材を育成する。						
事業を構成する個別事業名		事業費	対象経費	財源内訳		
				推進交付金	地方債	一般財源
1	社会体育一般事務費(負担金)	500,000円	250,000円	125,000円	0円	375,000円
					0円	0円
					0円	0円
合計		500,000円	250,000円	125,000円	0円	375,000円

## 2. どのように実行したか(Do)

個別事業の実施内容	個別事業の実施結果
<p>1 スポーツによる地域振興イベントと広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東温市から「愛・野球博実行委員会」に対し、負担金500,000円を支出。□</li> </ul> <p>(1) 愛媛マンダリンパイレーツによる親子野球教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛・野球博実行委員会は、「愛媛県民球団株式会社」に補助金100,000円を支出。</li> <li>・ 愛媛県民球団株式会社は、東温市内でマンダリンパイレーツの選手による野球教室を開催。</li> </ul> <p>(2) 東温市ソフトボールフェスティバルの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛・野球博実行委員会は、「東温市ソフトボールフェスティバル実行委員会」に補助金400,000円を支出。</li> <li>・ 東温市ソフトボールフェスティバル実行委員会は、全国から中学・高校の強豪ソフトボールチームを誘致し、競技力向上と交流・親睦を目的としてソフトボール大会を実施。</li> </ul>	<p><b>【野球教室開催概要】</b></p> <p>開催日時:平成31年3月2日(土)  開催場所:東温市かすみの森公園  参加者:東温市内外の親子50組  推定交流人口:約200人(子供50人、保護者100人、関係者50人)</p> <p><b>【東温市ソフトボールフェスティバル開催概要】</b></p> <p>開催日時:平成31年2月10日(月)～2月11日(火)  開催場所:東温市総合公園、かすみの森公園、東温高校  参加チーム:16校                    高校12校(うち県外10チーム)                    中学4校(うち県外2チーム)  推定交流人口:約500人(選手300人、引率・指導者50人、保護者等150人)</p>

### 3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI) ①	事業開始前			H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
社会減の縮小数 ※事業開始前の数値 (平成27年:3,869人の転出超過)	基準値	622 人	目標値	400 人	400 人	450 人	1250 人
			実績値	-816 人	人	人	-816 人
			達成率	(204.0) %	0.0 %	0.0 %	(65.3) %
重要業績評価指標 (KPI) ②	事業開始前			H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
県外からの移住者数 ※事業開始前の数値 (平成27年度:274人)	基準値	1,085 人	目標値	223 人	223 人	400 人	846 人
			実績値	630 人	人	人	630 人
			達成率	282.5 %	0.0 %	0.0 %	74.5 %
重要業績評価指標 (KPI) ③	事業開始前			H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
観光入込客数(総数・千人) ※事業開始前の数値 (平成27年:27,085千人)	基準値	26,999 千人	目標値	387 千人	387 千人	400 千人	1,174 千人
			実績値	-1,607 千人	千人	千人	-1,607 千人
			達成率	(415.2) %	0.0 %	0.0 %	(136.9) %
重要業績評価指標 (KPI) ④	事業開始前			H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
観光客消費額(億円) ※事業開始前の数値 (平成27年:1,101億円)	基準値	1,125 億円	目標値	24.4 億円	24.4 億円	25 億円	73.8 億円
			実績値	8 億円	億円	億円	8 億円
			達成率	32.8 %	0.0 %	0.0 %	10.8 %

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

本事業は愛媛県及び県内市町による広域連携事業であり、上記KPIは県全域の視点から設定されたものである。  
 また、事業規模も小さいため、本事業が東温市の地方創生の実現に寄与しているかどうかを定量的な数値で表すことは難しいが、計画に対する行動とその成果としては、本市が支出した負担金に相当する額が本市内で開催されるイベント等の主催者に補助金として交付され、一定の交流人口が発生している。また、県内各地のスポーツ団体や文化団体など、市民主体の取組の継続化や自立化を後押しする事業趣旨に概ね沿った実績となっているものと思われる。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

スポーツ団体の活動の後押しはできたが、本事業全体として産業振興・地域振興を目指すものであるため、その趣旨をさらに明確に伝え、個々のイベント等のブラッシュアップを求めていく必要がある。

②委員のご意見

- ・スポーツ振興だけで社会減の縮減数や移住者数をKPIとして測定するには無理がある。
- ・狙いとDOIに乖離があるように感じる。

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に非常に効果があった	地方創生に効果があった	地方創生に一部効果がみられた	地方創生に効果がなかった
今後の方針	事業内容の追加又は変更を行い、発展的に実施する	事業内容の改善・見直しを図りながら継続する	事業の一部は継続、一部は廃止する	事業全体を廃止、又は中止する

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

- ・計画どおり実施できているため、次年度以降はさらに創意工夫を加えながら継続する。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

- ・地方創生事業の趣旨をスポーツ・文化団体にも明確に伝え、スポーツ・文化関係者がまちづくりへの俯瞰的な視点を持って取組を深めていくよう啓発する。

【事業全体としての改善点】

- ・文化面においては、類似した事業構造であるアートヴィレッジとうおん構想との連携を愛媛県に提案し、文化と地域振興の結びつきを強めていく。

# 東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成30年度当初予算事業)

## 1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費		
4	◆瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業 ～更なる観光戦略の 深化と地域連携(東温市、砥部町)による活性化事業～	平成30年4月	平成31年3月	1,176,000円		
事業全体の概要						
<p>平成28～32年度の5ヶ年計画による広域連携事業(松山市・東温市・砥部町)として実施する。            今後進む人口減少社会の中において、地域活力を低下させることなく、松山圏域の多様な1次・2次産品や「道後温泉」「松山城」といった観光需要をうまく取り込むことが地域の活性化につながるため、観光交流人口の拡大を図り、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域密着型の観光地域づくりが必要となっている。            松山市が「広域観光連携推進協議会」を構成する東温市、砥部町で連携して観光エリアを拡大し、松山の先につながる観光周遊ルートの構築、「温泉」、「浴衣(着物)」、「俳句・文学」、「日本酒」、「四国遍路」「自然」「忽那諸島」などをテーマに、瀬戸内エリアや近隣市町の観光素材をつなぎ合わせた、テーマ型広域エリア周遊旅行商品の造成などに取り組み、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。</p>						
交付金事業として採択されたポイント						
① 自立性		② 官民協働		③ 政策間連携		④ 地域間連携
参画する自治体や民間事業者からの負担金、事業や旅行商品に係る収入などの自主財源を確保する。		自治体間の地域連携DMOを設立し、大手旅行会社や航空会社など、多様な関係者で事業を展開する。		観光産業の振興と離島地域の活性化を融合させ、交流人口拡大、新産業創出、人材育成に繋げる。		関西から広島・そして松山の流れを →島しょ部→松山圏域→愛媛エ リア→四国エリアへの拡大を図る。
事業を構成する個別事業名		事業費	対象経費	財源内訳		
				推進交付金	地方債	一般財源
1	瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業	1,176,000円	1,008,701円	504,000円	0円	672,000円
					0円	0円
					0円	0円
合 計		1,176,000円	1,008,701円	504,000円	0円	672,000円

## 2. どのように実行したか(Do)

個別事業の計画	個別事業計画の実施結果
<p>1 広域観光連携推進協議会負担金(決算額:1,176,000円)</p> <p>松山市・東温市・砥部町「広域観光連携推進協議会」による『松山圏域連携中枢都市圏での観光連携に向けた取組み』として、瀬戸内海エリアや近隣市町の観光素材をつなぎ合わせた旅行商品の開発などにより、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るため、市負担金を拠出。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町の負担金内訳 松山市 3,710,000円 東温市 1,176,000円 砥部町 1,114,000円 計6,000,000円</li> </ul>
<p>(1) 誘致宣伝事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2市1町への観光客の誘致宣伝を図るため、各市町の職員が県外に赴き、「道後温泉」「坊っちゃん劇場」「砥部焼き」など、地域の資源を活用しながらの誘致宣伝活動を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都新宿区、広島市(3回)において誘致宣伝活動を行い、各市町のパンフレットの配布、特産品の販売、特産品が当たるガラポン、ゆるキャラ等による観光PRを行った。 販売した物産品は、東温市産品が中心となっており、魅力ある東温市の物産品のPRにも貢献している。</li> </ul>
<p>(2) パンフレット等誘致宣伝物作成業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誘致宣伝活動における情報発信や誘客を図るため、パンフレットや、ノベルティグッズ等を作成。</li> <li>「俳句」「レンタサイクル」「絵付け」体験をテーマとした名刺サイズの割引チケットを作成し、県外でのイベント等で配布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誘致宣伝のための2市1町の観光パンフレット等の作成を行った。 パンフレット 『EMOTABI』(5,000部)</li> <li>体験型割引券 『ぐるっと巡る!!～松山・東温・砥部～体験型割引券』(10,000枚)</li> </ul>
<p>(3) 周遊観光促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域観光周遊の促進を図るため、「魅力ある周遊観光モデルルートの検討」などを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒蔵ツーリズム造成事業 2市1町をお酒でテーマ付けした着地型旅行商品の造成。 前年度行ったモニターツアーを基に『酒蔵ツーリズム』ツアー商品を造成した。</li> <li>広域観光連携魅力紹介番組制作事業 イベントのPRと2市1町の観光地を紹介する番組の制作・放映 ※広島ホームテレビで3月21日(木)に放送</li> </ul>

### 3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI) 1	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
松山市の観光入込客数	580 万人	10 万人	10 万人	0 万人	0 万人	0 万人	20 万人
		$2.79_3$ 万人	18 万人	0 万人	万人	万人	21 万人
		30.0 %	180.0 %	100.0 %	%	%	105.0 %
重要業績評価指標 (KPI) 2	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
松山市の外国人観光客延べ宿泊者数	130,000 96,100 人	20,000 人	20,000 人	30,000 人	30,000 人	30,000 人	130,000 人
		$57,500_38,600$ 人	5,600 人	15,900 人	人	人	60,100 人
		193.0 %	28.0 %	53.0 %	0.0 %	0.0 %	46.2 %

①事業成果に対する分析				
<p>【成果の上がった点及びその原因】 瀬戸内・松山構想を中核とした広域かつ官民連携による取り組みにより、観光客数は現状維持となっている。共同でイベントを実施するなど、連携したPRが出来た。</p> <p>【成果の上がらなかった点及びその原因】 松山市からの利用客が多いさくらの湯で機械トラブルによる臨時休館があり、誘客機会を逃す結果となった。</p>				
②委員のご意見				
<p>・改善策として、広域周遊商品の開発を進め、実現化を目指すことが必要ではないか。</p>				
③事業評価及び今後の方針				
事業評価	地方創生に非常に効果があった	地方創生に効果があった	地方創生に一部効果がみられた	地方創生に効果がなかった
今後の方針	事業内容の追加又は変更を行い、発展的に実施する	事業内容の改善・見直しを図りながら継続する	事業の一部は継続、一部は廃止する	事業全体を廃止、又は中止する

#### 4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案
<p>【成果の上がった点に関する方針及び具体策】 ・市の豊かな食材やユニークな製品も活用し、周遊観光客の誘致促進に役立つ東温市独自の魅力ある観光資源のブラッシュアップや、受入体制の構築・強化を図る。</p> <p>【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】 ・広域周遊商品に対する周知不足に対し、協議会、県、事業所等関係各者と連携してPRする体制を検討する。</p> <p>【事業全体としての改善点】 ・松山→東温の流れを中心に、交流人口の影響や地域経済の波及効果が直接生まれるような広域周遊商品の商品化と活用について、広域観光連携推進協議会事務局と調整する。</p>